

介護福祉科(CW23A、24A)

			単位	時間	1年次		2年次	
					前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の理解	講義	2	30	30			
	人間関係とコミュニケーション	講義	2	60	30	30		
	社会と制度の理解Ⅰ	講義	2	30		30		
	社会と制度の理解Ⅱ	講義	2	30			30	
	国語表現	講義	2	30	30			
	地域福祉論	講義	2	30			30	
	福祉情報処理	演習	4	60			30	30
介護	介護の基本Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護の基本Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護の基本Ⅲ	講義	4	60				60
	コミュニケーション技術	講義	4	60	30	30		
	生活支援技術A(実技基礎)	実技	2	60		60		
	生活支援技術B(実技応用)	実技	2	60			60	
	生活支援技術C(被服/住居)	演習	4	60	60			
	生活支援技術D(栄養/調理)	演習	4	60				60
	生活支援技術E(重複障害者の介護)	講義	2	30		30		
	生活支援技術F(内部障害)	講義	2	30			30	
	介護過程Ⅰ	講義	4	60		60		
	介護過程Ⅱ(ケアマネジメント)	講義	2	30			30	
	介護過程Ⅲ(演習)	演習	4	60				60
	介護総合演習Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護総合演習Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護実習(最終実習に夜勤1回含む)	実習	15	456	80	176	200	
しくみとからだの	発達と老化の理解	講義	4	60	30	30		
	認知症の理解	講義	4	60	30	30		
	障害の理解Ⅰ	講義	2	30	30			
	障害の理解Ⅱ	講義	2	30			30	
	しくみとからだのしくみⅠ	講義	4	60	30	30		
	しくみとからだのしくみⅡ	講義	4	60			30	30
	機能的解剖学	講義	2	30		30		
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	2	34	34			
	医療的ケアⅡ	講義	2	34			34	
	医療的ケアⅢ 演習	演習	4	60				60
			111	1994	474	596	564	360
選択	整体療法学	実技	2	60			60	
			113	2054	474	596	624	360

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 人間の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の概要

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

## 2 到達目標

- ①「人間の尊厳」について体験や事例から、自分の意見を表現することができる。
- ②「自立」について、本人主体の観点から、自己決定、自己選択の考え方を理解し、体験や事例から、自分の意見を表現することができる。

## 3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義やグループワークを中心に行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験	60%	授業態度	15%
提出物	15%	授業への貢献度	10%

## 5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

「考える」ことが多い授業です。事前に教科書を読んでおいてください。

## 7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 人間の理解 中央法規出版 配付資料

## 8 学生へのメッセージ

単に用語やトピックの説明を覚えるのではなく、なぜそう考えるのか、自分はそれをどう現実化したいのかを思索しながら、介護福祉の理念について理解を深めましょう。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 人間の理解 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	価値観から考える他者理解
3	人間の尊厳とは
4	人権について
5	人権思想と福祉の理念①
6	人権思想と福祉の理念②
7	ノーマライゼーションとは
8	ノーマライゼーションについて考える
9	QOLについて
10	権利擁護について
11	自立とは
12	介護を必要とする人の自立
13	ICF と ICIDH
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 人間関係とコミュニケーション ）

学科名 介護福祉科  
学年 1年

- 1 授業の内容  
介護職によるケアは、利用者や他職種との関係づくりから始まる。  
ここでは、他者との関係づくりのために必要なコミュニケーションや、  
介護実践におけるチームマネジメントについて学ぶ。
- 2 到達目標  
コミュニケーションおよび組織・チームの一員としてのチームマネジメント実践につ  
いて知識と理解を深め、他者との信頼関係構築のための基本を身につける。
- 3 授業の方法  
**PowerPoint** スライドを使用した講義を中心とし、学習項目によって演習を取り入れる。
- 4 成績評価方法・基準  
中間試験 30% 定期試験 30% 確認テスト 20% 授業態度 20%
- 5 評価の際の特記事項  
授業態度は、聴講の態度、質問への返答、グループワークでの積極性等を総合的に判  
断する。  
通年科目だが、前期終了時に中間試験を実施する。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容  
重要語句の意味などを確実に定着させるための復習に加え、学んだコミュニケーション  
のメカニズムなどを日常生活で意識しながら過ごしてみる。
- 7 使用教材、教具  
最新・介護福祉士養成講座（第2版） 人間の理解 中央法規出版
- 8 学生へのメッセージ  
コミュニケーションは対人援助職の基本ですが、学んでみると複雑で奥深いものです。  
専門的な知識や技法を用いたコミュニケーションを知り、介護実践やチーム・組織の  
運営に活かせるよう学習しましょう。
- 9 教員氏名 （ 廣瀬 佑 ）  
所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）
- 10 特記事項  
通常教員による授業科目

科目名（ 人間関係とコミュニケーション ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 人間の誕生と介護の関係・自分と他者の理解
2	発達心理学からみた人間関係 -エリクソンの発達段階説-
3	社会心理学からみた人間関係 -対人認知・集団とのかかわり-
4	人間関係とストレス
5	確認テスト①・解説
6	コミュニケーションの概念と基本構造
7	コミュニケーションの手段 -言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション-
8	人間関係の発展と後退・アサーティブ・コミュニケーション
9	対人援助における基本的態度 -受容・共感・傾聴, バイステックの7つの原則-
10	組織におけるコミュニケーション①
11	組織におけるコミュニケーション②
12	確認テスト②・解説
13	前期まとめ①
14	前期まとめ②
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	ヒューマンサービスとしての介護サービス
18	介護現場で求められるチームマネジメント
19	介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み
20	ケアを展開するためのチームマネジメント①
21	ケアを展開するためのチームマネジメント②
22	確認テスト③・解説
23	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
24	介護福祉職のキャリアパスとキャリアデザイン
25	介護福祉職のキャリア支援・開発
26	介護サービスを支える組織の構造
27	介護サービスを支える組織の機能と役割
28	介護サービスを支える組織の管理
29	確認テスト④・解説
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会と制度の理解Ⅰ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

本授業では、日常にある福祉の内容を理解し、その制度がどのような歴史的背景の中に誕生し変化してきたのか、また、私たちの生活とどのように結びついているのか、ということについて理解を深める。担当教員の実務経験を基に、実際のサービス・制度利用者の事例を参考にしつつ、社会保障や各福祉に関する諸制度の内容・仕組みなどを学びながら福祉の諸制度についての基礎的知識を習得する。

## 2 到達目標

- ① 生活の中にある福祉をライフステージごとに学ぶ事により、理解することができる。
- ② 社会保障の役割と意義、制度の歴史的背景など制度全体の内容を理解し、相談業務など介護を実践するうえで必要な知識を習得することができる。
- ③ 介護保険制度の創設目的や運用について理解することにより、介護実践の基礎を身につけることができる。

## 3 授業の方法

教科書、その他の資料を用いながら、講義形式で進めていく。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 60% レポート 20% 授業態度 20%

## 5 評価の際の特記事項

定期試験及びレポートの提出、受講姿勢をもとに評価を行う。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでください。

## 7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 社会の理解 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

分かりやすいように授業を進めていきますので、しっかり授業に参加してください。また、分からない点があれば、積極的に確認してください。

9 教員氏名 （ 山崎 紘史 ）

所 属 （ 社会福祉法人 実寿穂会 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて社会福祉士として勤務 ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会と制度の理解Ⅰ ）

回数	授業内容
1	第1章 私たちの生活と社会福祉 第1節 生活とは
2	第1章 私たちの生活と社会福祉 第2節 家族とは
3	第1章 私たちの生活と社会福祉 第3節 地域社会と個人
4	第1章 私たちの生活と社会福祉 第4節 人と社会・組織
5	第1章 私たちの生活と社会福祉 第5節 現代におけるライフスタイルの変化
6	第1章 私たちの生活と社会福祉 第6節 生活の支援と福祉の体系
7	第2章 社会保障のしくみ 第1節 社会保障の基本的な考え方
8	第2章 社会保障のしくみ 第2節 日本の社会保障制度の発達
9	第2章 社会保障のしくみ 第3節 日本の社会保障制度のしくみ①
10	第2章 社会保障のしくみ 第3節 日本の社会保障制度のしくみ②
11	第2章 社会保障のしくみ 第4節 現代社会と社会保障の制度
12	第3章 介護保険制度 第1節 介護保険制度創設の目的
13	第3章 介護保険制度 第2節 介護保険制度のしくみ
14	講義振り返り・ポイント復習・レポート
15	定期試験
16	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 国語表現 ）

学科名 介護福祉科  
学年 1年

## 1 授業の内容

国語で適切かつ効果的に表現する能力「話す、聞く、書く、読む」を学習し、思考力や想像力を伸ばし、進んで表現することによって、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

## 2 到達目標

- ・「話す、聞く、書く、読む」といった、社会で通じる実践的な国語力・表現力を身に着ける。
- ・ことばの特性や機能を理解し、挨拶や敬語を表現できる。
- ・日本語の表記方法を理解し、正しく文章を書き表すことができる。
- ・国家試験問題を読み解くことができる。

## 3 授業の方法

講義も行うが、文章の読み書きの演習を中心とする。

## 4 成績評価方法・基準

レポート 40% 提出物 40% 授業態度 20%

## 5 評価の際の特記事項

レポートは、内容、文章力、文章構成力、語彙力、表記方法、誤字脱字の有無などを総合的に評価します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

本や新聞、ネットニュースなど、日常的に文章を読む習慣をつける。

## 7 使用教材、教具

配布資料 筆記用具

## 8 学生へのメッセージ

実習ではレポートを適切に書くことが求められますし、就職後は現場の記録作成に携わります。読み手に情報が正しく伝わる文章表現の基礎をマスターしましょう。また、国家試験問題を解くためには、読解力を始めとした総合的な国語力が求められます。問題を読み解く力を身につけましょう。

## 9 教員氏名（ 廣瀬 佑 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

## 10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 国語表現 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	伝わる表現 ー図形伝言ゲームを通してー
3	漢字と語彙
4	人とつながる言葉 ー挨拶・敬語表現・言葉の可能性と危険性ー
5	文章表現の基礎① ー語句の表記と用法・文の区切り・接続表現ー
6	文章表現の基礎② ー主述の関係・話し言葉と書き言葉・常体と敬体ー
7	文章の構成と推敲
8	効果的な説明の方法
9	要約の仕方
10	言葉を遊ぶ ー川柳・俳句・短歌ー
11	自己分析・自己PR
12	読解力 ー国家試験問題を用いてー ①
13	読解力 ー国家試験問題を用いてー ②
14	記録の書き方 ー情報を正しく伝えるー
15	メディアリテラシー

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本 I ）

学科名 介護福祉科  
学年 1年

## 1 授業の内容

介護の歴史を学び、現在の介護を取り巻く環境を相対的に理解する。また、「尊厳の保持」や「自立支援」など介護の考え方を学習し、介護福祉士の専門性と倫理を理解して、介護福祉士に求められる役割、介護観について学びを深めていく。

## 2 到達目標

- ① 「尊厳とは何か」「自立支援とは何か」など、介護福祉の基本となる理念を理解し、どのような介護が求められるかを述べるができる。
- ② 介護福祉士の定義や義務規定、職業倫理について理解し、介護実践の場で介護福祉士が果たすべき役割や取るべき態度、求められる能力について考えを具体的に述べるができる。

## 3 授業の方法

PowerPoint スライドを使用した講義を中心とし、学習項目によって演習を取り入れる。

## 4 成績評価方法・基準

中間試験 30% 定期試験 30% 確認テスト 20% 授業態度 20%

## 5 評価の際の特記事項

授業内にて提示する事前課題へ取り組む姿勢や、グループワークへの貢献度なども考慮する。通年科目だが、前期終了時に中間試験を実施する。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

テキストによる予習復習、および学習内容を国家試験問題と照らし合わせた振り返り。

## 7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 介護の基本 I 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

介護福祉の基本理念を理解し、介護福祉の専門職としての態度、持つべき倫理観を養いましょう。

9 教員氏名 （ 廣瀬 佑 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

## 10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 介護の基本Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・介護福祉の基本理念
2	社会福祉士及び介護福祉士法 ー介護福祉士の定義と義務規定ー
3	介護福祉士に求められる役割とその養成
4	介護福祉士の活躍の場と役割①
5	介護福祉士の活躍の場と役割②
6	介護福祉士を支える団体
7	確認テスト①・解説
8	介護福祉を取り巻く状況
9	介護福祉の歴史①1960年代まで
10	介護福祉の歴史②1970年代・1980年代
11	介護福祉の歴史③1990年代
12	介護福祉の歴史④2000年以降
13	確認テスト②・解説
14	前期まとめ
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	倫理とは 職業倫理・生命倫理・普遍的生命倫理原則
18	倫理判断と倫理的調整(決着)
19	倫理的対応が必要な事例の検討
20	介護福祉士に求められる職業倫理
21	日本介護福祉士会倫理綱領
22	確認テスト③・解説
23	自立支援の考え方① ー利用者理解の視点・ICFー
24	自立支援の考え方② ー意思決定支援・社会参加ー
25	ICFの考え方
26	リハビリテーションとは ー全人間的復権ー
27	リハビリテーションの実際
28	リハビリテーションにおける評価・介護福祉士の役割
29	自立支援と介護予防
30	確認テスト④・解説・後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

# シラバス (授業計画書)

科目名 ( コミュニケーション技術 )

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の概要

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

## 2 到達目標

- ①対象者のコミュニケーションの状態を、ICF 基づいてアセスメントできる。
- ②個々の介護場面に応じたコミュニケーション技術を習得し、実践することができる。
- ③チームにおけるコミュニケーションとして、記録、報告、連絡、相談、会議、情報管理などにおける技法を実践できる。

## 3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義やグループワークを中心に行う。

## 4 成績評価方法・基準

中間試験 30% 定期試験 30% 提出物 15% 授業態度 15% 授業への貢献度 10%

## 5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワーク、演習での役割、発表などの実績を評価します。通年科目ですが、前期終了時に中間試験を実施します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業では教科書以外の事例、演習も用いることがあります。事前に教科書の演習に目を通し、自分なりの答えを導き出してください。

## 7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） コミュニケーション技術 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

コミュニケーション技術は介護福祉士の専門性の中核を成しています。「実践できる」レベルで修得できるよう、授業に取り組んでください。

## 9 教員氏名 ( 谷口 幸太郎 )

所 属 ( ところ医療福祉専門学校 介護福祉科 )

実務経験の詳細 ( 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり )

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（コミュニケーション技術）

回数	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションとは
2	コミュニケーションの基本①
3	コミュニケーションの基本②
4	言語・非言語・準言語コミュニケーション
5	コミュニケーション演習①
6	対人援助職のコミュニケーション
7	集団でのコミュニケーション
8	コミュニケーション障害への対応の基本
9	視覚障害のある人とのコミュニケーション
10	聴覚障害のある人とのコミュニケーション
11	認知症のある人とのコミュニケーション
12	コミュニケーション演習②
13	コミュニケーションにおける距離とは
14	前期まとめ
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	構音障害のある人とのコミュニケーション
18	失語症のある人とのコミュニケーション
19	コミュニケーション演習③
20	うつ病・抑うつ状態、統合失調症、精神障害のある人とのコミュニケーション
21	発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害のある人とのコミュニケーション
22	コミュニケーション演習④
23	家族とのコミュニケーション
24	介護における記録について
25	報告・連絡・相談について
26	コミュニケーション演習⑤
27	意思決定支援のコミュニケーション
28	コミュニケーション演習⑥
29	コミュニケーション演習⑦
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 A（実技基礎） ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識や技術や知識を取得する学習とする。

## 2 到達目標

基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立支援の観点から根拠に基づいた介護実践ができる。

## 3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 40% 実技チェックテスト 40% 授業・演習態度 20%

## 5 評価の際の特記事項

授業態度やグループワークでの役割などを考慮します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内でおこなった学習を振り返り，繰り返し練習することで身体に身につけるようにしてください。また，国家試験に出題される語句については教科書にマーカーをつけ覚えるようにします。

## 7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

授業内でも声をしっかり出していきましょう。

## 9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 / 井手口 弘明 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

経 験（ 両名とも介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生活支援技術 A（実技基礎） ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 生活支援の理解
2	オリエンテーション 身だしなみ, 感染予防
3	ボディメカニクス
4	ボディメカニクス
5	休息・睡眠の介護 特殊寝台の機能, 基本操作
6	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
7	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
8	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
9	移動の介護
10	移動の介護
11	移動の介護
12	移動の介護
13	移乗の介護
14	移乗の介護
15	移乗の介護
16	移乗の介護
17	移乗の介護
18	移乗の介護
19	身支度の介護 整容
20	身支度の介護 整容
21	身支度の介護 着脱介助
22	身支度の介護 着脱介助
23	身支度の介護 着脱介助
24	身支度の介護 着脱介助
25	実技チェックテスト
26	実技チェックテスト
27	食事の介護
28	食事の介護
29	振り返り・まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（生活支援技術C（住居／被服）（住居））

学科名 介護福祉科  
学年 1年

- 1 授業の内容  
私たちが意識しないままに、何気なく過ごしている「生活」とは何かを理解し、その「生活」を支えるために何が必要なのかを居住環境の整備の観点から把握する。
- 2 到達目標  
住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識が理解できるようになる。
- 3 授業の方法  
普通教室にて座学、およびグループワーク
- 4 成績評価方法・基準  
定期試験 70% 授業態度 30%
- 5 評価の際の特記事項  
特になし
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容  
新聞に目を通したり、ニュースを見たりする。
- 7 使用教材，教具  
最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術 I 中央法規出版
- 8 学生へのメッセージ  
提示された課題（居住環境に関する課題）に対し、自学やグループワークなどを行うことにより、課題解決のプロセスを考察して自分の考えをアウトプットできるようになる。
- 9 教員氏名（奈良崎 博一）  
所 属（社会福祉法人 ながよ光彩会）  
実務経験の詳細（病院および介護施設にて理学療法士として勤務経験あり）
- 10 特記事項  
実務経験のある教員による授業科目

科目名（生活支援技術C（住居／被服）（住居））

回数	授業内容
1	人が安心して快適に暮らすために必要な環境の整備とは何か、その意義と必要性について理解する。
2	高齢者や障害のある人の住まいの多様性について学ぶ。
3	生活の場の考え方を理解する。
4	住まいに関連した環境問題について学ぶ。
5	国際生活分類(ICF)と居住環境整備におけるアセスメントの視点を学ぶ。
6	住まいにおける安心・快適な室内環境の確保について学ぶ。
7	集団生活の場においても「利用者のこれまでの暮らし」を継続させるための視点、環境整備の工夫を学ぶ。
8	住居環境の整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。
9	事例からチームケアのあり方を具体的に学ぶ。
10	定期試験
11	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術C（住居／被服）（被服） ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

- (1) 健康で快適な被服生活を営む上で必要な、被服の役割・機能・選択・管理について学ぶ。
- (2) 高齢者・障害者に適した被服を学ぶ。
- (3) 自立に向けた身支度の介護技術について学ぶ。

## 2 到達目標

家事介助の意義及び目的を理解し、適切な家事介助のために必要な被服に関する基礎的知識、及び技術を習得する。

## 3 授業の方法

テキストを中心としながら理論と実技を学習する。衣服や繊維の観察、実験なども取り入れながら知識を深める。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 50% 提出物 40% (レポート 10%, 製作品 30%) 授業態度 10%

## 5 評価の際の特記事項

授業態度は、実技の積極性も重視します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習として、指示したテキストのページを読んでおいてください。授業後は、授業内で取り上げたキーワードについて、配付資料を読み返して復習してください。

## 7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術 I 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

被服に関心を持ち、学んだことを実践及び体験することにより理解が深まります。

9 教員氏名 ( 砂崎 素子 )

所 属 ( 長崎大学教育学部 非常勤講師 )

## 10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（生活支援技術C（住居／被服）（被服））

回数	授業内容
1	被服の役割と機能, 色の効果
2	被服の役割と機能, 色の効果
3	被服の品質表示ラベルの見方
4	組成表示, サイズ表示, 取扱絵表示など
5	被服の素材(繊維)の種類と特徴
6	被服の素材(繊維)の種類と特徴
7	高齢者の被服(体型と動作に合わせた素材とデザイン)
8	障害者の被服(体型と動作に合わせた素材とデザイン)
9	繊維に付着する汚れの種類と洗濯
10	繊維に付着する汚れの種類と洗濯
11	繊維品の手入れ(漂白・シミぬき・アイロン)と保管(防虫剤・除湿剤)の仕方
12	繊維品の手入れ(漂白・シミぬき・アイロン)と保管(防虫剤・除湿剤)の仕方
13	被服基礎実習①基礎縫い, ボタン付け, 衣類の修繕
14	被服基礎実習①基礎縫い, ボタン付け, 衣類の修繕
15	被服基礎実習②フレーム織り機によるコースター作製
16	被服基礎実習②フレーム織り機によるコースター作製
17	被服生活(季節に合わせた快適な着用の工夫)
18	被服生活(季節に合わせた快適な着用の工夫)
19	まとめ
20	定期試験
21	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術E（重複障害者の介護） ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

宮崎：視覚障害者の最も有効なコミュニケーション手段のひとつである点字の読み書きを学び、障害者への理解を深める。

平：視覚障害について学習する。

聴覚障害者及び重複障害者とのコミュニケーション方法を学習する。

## 2 到達目標

宮崎：簡単なお知らせ文の読み書きができる。

平：視覚障害への理解を深める。手話で自己紹介ができるようになる。

## 3 授業の方法

宮崎：点字のルールや書き方，読み方を説明し，演習を行う。

平：視覚障害に関する講義，手話実技（一人ずつ発表）。

## 4 成績評価方法・基準

宮崎：定期試験 80% 宿題・出席等 20%

平：定期試験 80% 授業態度 20%

※点字と手話，それぞれの成績の50%を合計したものが最終成績となる。

## 5 評価の際の特記事項

宮崎：特になし 平：授業中真面目な態度で取り組んでいるかを見ます。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

宮崎：毎授業ごとに読み方，あるいは書き方の宿題を出す。

平：テキスト，配布プリント等での予習・復習をする。

手話実技は特に繰り返して覚える必要がある。

## 7 使用教材，教具

宮崎：初めての点訳（第3版），携帯用点字器，点筆，用紙

平：今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと遊ぼう！

一般財団法人全日本ろうあ連盟

## 8 学生へのメッセージ

宮崎：街中や身のまわりにある点字サインを読めるようになろう！！

平：聴覚障害者が社会でどのような不便を感じているかを知り，自分が習得したコミュニケーション方法で支援ができるように努力してほしい。

## 9 教員氏名（ 宮崎 深幸 ， 平 恵理子 ）

所 属（ 宮崎：長崎県視覚障害者情報センター

平：一般社団法人長崎県ろうあ協会 ）

## 10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（生活支援技術E（重複障害者の介護））

回数	授業内容
1	点字について（歴史・概要・点字器の使い方）、50音の書き方・読み方：宮崎
2	語の書き方・読み方について、演習：宮崎
3	仮名づかいの表し方・読み練習、演習：宮崎
4	数字の書き方、演習：宮崎
5	文節分かち書きについて、演習：宮崎
6	文節分かち書き（複合語）について、演習：宮崎
7	おしらせ文あるいは案内文を書く、演習：宮崎
8	定期試験
9	答案返却と解説
10	オリエンテーション・講義・聴覚障害（聞こえない）とは？ 実技 あいさつ、学校名：平
11	講義 手話のなりたち 実技 名前：平
12	講義 コミュニケーション方法 実技 家族：平
13	講義 聴覚障害者の生活（家庭・地域） 実技 数字：平
14	講義 聴覚障害者の生活（学校・職場） 実技 住所：平
15	講義 聴覚障害者の生活（盲ろう者） 実技 趣味・仕事：平
16	定期試験
17	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程 I ）

学科名 介護福祉科

学 年 1年

## 1 授業の内容

利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学習とする。

## 2 到達目標

①各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護過程の意義・目的を理解し、自分の言葉で説明できる。

②介護実践に必要な観察力・判断力およびPDCAなどの思考課程を理解する。

③利用者の望む生活の実現のために必要な情報（アセスメント）とは何かを、主体となって考えることができる。

## 3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義や事例検討（演習）、およびグループワークを中心に行う。

## 4 成績評価方法・基準

レポート 40% 事例検討課題 20% 授業態度 15% 授業への貢献度 10%  
小テスト 15%

## 5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

出された課題には必ず取り組んでから、授業にのぞんでください。

## 7 使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 介護過程 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

「利用者を知ること」の大切さ、アセスメントの重要性への理解を深めていきましょう。日頃から、自己・他者に対し関心を持つことと、想像力が大切です。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 介護過程 I )

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	介護過程について
3	アセスメントとは
4	情報収集について学ぶ
5	情報収集のための観察力
6	観察力を身につける
7	アセスメントのための対象者理解①
8	アセスメントのための対象者理解②
9	演習① 動画から情報収集
10	演習② 動画から情報収集
11	演習③ 動画から情報収集
12	演習④ 動画から情報収集
13	情報の解釈・関連付け・統合化について
14	生活課題の明確化について
15	セルフアセスメントをしてみよう①
16	セルフアセスメントをしてみよう②
17	介護計画の立案について①
18	介護計画の立案について②
19	事例検討1－①
20	事例検討1－②
21	事例検討1－③
22	事例検討1－④
23	事例検討1 解説
24	事例検討1 解説
25	事例検討2－①
26	事例検討2－②
27	事例検討2－③
28	事例検討2－④
29	事例検討2 解説
30	事例検討2 解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

学科名 介護福祉科  
学年 1年

## 1 授業の内容

介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習をする。

## 2 到達目標

①実習の教育効果を上げる為に、事前に実習施設についての理解を深めると共に、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践につながる事ができる。

②実習を振り返り、専門職としての態度を養う事ができる。

- ・介護実習の必要性とその意義を理解することができる。
- ・挨拶、礼儀、マナーを身につけることができる。
- ・利用者理解、情報収集、分析等の情報処理が適切にでき、介護過程へと展開することができる。
- ・見る、聞く、話す、書く、察する、まとめる力を身に付けることができる。

## 3 授業の方法

普通教室にて、実習の手引きや配付プリントを用いた講義、学生自身による調べ学習また実習に行くにあたり必要な提出書類の作成、演習を中心に行う。

## 4 成績評価方法・基準

レポート 40% 授業態度 20% 提出物 20% 第1段階実習報告会 20%

## 5 評価の際の特記事項

特になし

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前学習：目標・個人票は、自宅で考案・作成し、教員に許可を得る。

## 7 使用教材、教具

こころ医療福祉専門学校 介護実習の手引き、配付資料

## 8 学生へのメッセージ

介護実習の意義を理解し、実習前、実習中、実習後に必要な学習内容を一つひとつ確認していきましょう。また、他の科目との関連性、学校での学びと実習との関連性について理解していきましょう。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 介護実習とは
2	第1段階実習について
3	各施設について事前学習①
4	各施設について事前学習②
5	第1段階実習 実習先選定
6	介護実習連絡帳の配付と記入
7	介護実習連絡帳の記入
8	実習記録の書き方
9	実習施設事前訪問について
10	実習の心構えについて
11	第1段階実習事前指導
12	第1段階実習振り返り・お礼状作成
13	第1段階実習報告会準備①
14	第1段階実習報告会準備②
15	第1段階実習報告会
16	第2段階実習について
17	各施設について事前学習③
18	各施設について事前学習④
19	レクリエーション準備
20	レクリエーション準備
21	第3段階事例検討報告会参加への準備
22	第2段階実習 実習先選定
23	介護実習連絡帳の配付と記入
24	介護実習連絡帳の記入
25	第2段階実習 実習課題の説明
26	実習施設事前訪問について
27	アセスメント演習①
28	アセスメント演習②
29	アセスメント演習③
30	第2段階実習事前指導

# シラバス (授業計画書)

科目名 ( 介護実習 )

学科名 介護福祉科

学年 1, 2年

## 1 授業の概要

福祉施設にて1年次に10日間(第1段階)、22日間(第2段階)の実習を、2年次に25日間(第3段階)の介護実習を行う。

## 2 到達目標

### 【第1段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を理解する。
- イ 介護が必要な人のニーズやさまざまな暮らしの場を理解する。
- ウ 介護施設、ならびに介護福祉職の一般的な役割について理解する。
- エ コミュニケーションの基礎的な技術を実践することができる。
- オ 尊厳を支えるケアや本人主体の自立支援の理解を深めることができる。

### 【第2段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を実践できる。
- イ 一人の利用者に関するアセスメントをし、生活課題を明確化できる。
- ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を模倣できる。
- エ 介護現場における多職種協働・連携について理解することができる。
- オ コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を構築することができる。

### 【第3段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。
- イ 利用者の個別性を理解した上で、介護過程を展開することができる。
- ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を選択し、実施できる。
- エ 様々な介護福祉関連業務を経験することができる。
- オ 介護現場における地域とのつながりについて理解することができる。

## 3 授業の方法

介護を必要とする人への支援のあり方や関わりについて、各授業で習得した知識や技術を用いて実際の介護現場で見学、模倣、実施から学ぶ実習である。

## 4 成績評価方法・基準

実習評価表 30% 巡回指導時の学習態度 20% 実習記録 20% 実習成果物 30%

## 5 評価の際の特記事項

評価はすべての実習が終了した2年次後期に行います。

## 6 授業時間外学習(予習・復習等)の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。

## 7 使用教材、教具

介護実習の手引き、配布資料

## 8 学生へのメッセージ

何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

- 9 教員氏名 ( 谷口 幸太郎, 吉田 直美, 廣瀬 佑 )  
 所 属 ( こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 )  
 実務経験の詳細 谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり  
 吉 田：病院, 介護施設にて看護師として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 介護実習 )

回数	授業内容
第1段階	【実習期間, 時間】 第1段階実習 1年次7月 80時間 (1日8時間×10日間)
	【実習内容】 第1段階実習は、コミュニケーションを中心に、介護が必要な人のニーズや暮らしの場の理解、並びに介護福祉職の一般的な役割について理解をする。また、様々な対象者へのケアを見学し、個々に応じた生活支援技術の実際を学び、尊厳を支えるケアや介護に本人主体の自立支援についての理解を深める。
	【実施項目】 ア 介護を必要とする人とのコミュニケーションを経験する。 イ 介護実践の現場における生活支援技術を見学する。
第2段階	【実習期間, 時間】 第2段階実習 1年次2～3月 176時間 (1日8時間×22日間)
	【実習内容】 第2段階実習は、介護過程におけるアセスメントを行い、生活課題の明確化まで行う実習です。一人の利用者への直接的な情報収集や他職種、介護記録等からの間接的な情報収集を通して、生活の全体像や本人の思い（ニーズ）を理解し、生活課題を明確化していきます。また、様々な利用者へのケアを通して、個々に応じたコミュニケーションの実践、生活支援技術の模倣、実施を経験し、技術の向上につとめます。
	【実施項目】 ア 介護過程におけるアセスメントを実施する。 イ 個別の状況に応じた生活支援技術を見学、及び模倣する。 ウ 様々な対象者に応じたコミュニケーションを、学んだ技術を用いて実践する。 エ 介護現場におけるレクリエーションを経験する。(可能な場合に限り)
第3段階	【実習期間, 時間】 第3段階実習 2年次8～9月 200時間 (1日8時間×25日間)
	【実習内容】 第3段階実習は、介護過程の展開を実践する実習です。一人の利用者に対して、「アセスメント→介護計画の立案→介護の実施→評価」を行い、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程の展開を実践的に学ぶと共に、介護福祉士の専門性について理解を深めます。また養成課程最後の実習であり、これまで授業で学んだ知識や技術を統合した上で、介護福祉職として必要な知識・技術の習得・向上につとめます。
	【実施項目】 ア 一人の対象者に関するアセスメントを行い、介護計画を作成する。 イ 作成した介護計画をもとに、介護の実施を行い、評価を行う。 ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を模倣、及び実施する。 エ 早出・遅出・夜勤等の業務を経験する。(可能な場合に限り) オ レクリエーションを企画し、実施する。(可能な場合に限り)

# シラバス（授業計画書）

科目名（発達と老化の理解）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

老化が与える心理的な影響を理解し、高齢者の精神疾患を中心にその治療的ケアを、一部事例を交えて学ぶ。

## 2 到達目標

老化の心理的影響とそれによる精神疾患，治療的ケアを中心に基礎的な用語を理解・習得していく。介護福祉士国家試験を想定し，苦手分野を克服する。

## 3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義の他国家試験問題の頻出問題を重点的に実施する。

## 4 成績評価方法・基準

中間試験 45% 定期試験 45% 授業態度 10%

## 5 評価の際の特記事項

授業態度は総合点に影響があります。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施し，成績評価を行います。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

この教科は，国家試験でも8問出ます。小テストでも何回も繰り返しワークノートを作りましょう。

## 7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 発達と老化の理解 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

配付資料は疾患別や心理学者別等こまめにファイリングしてください。

## 9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 発達と老化の理解 ）

回数	授業内容
1	人間の発達段階と発達課題 ① ピアジェ ・ エリクソン
2	人間の発達段階と発達課題 ② フロイト ・ ハヴェーガースト
3	身体的機能の発達と、心理的機能の発達
4	老年期の特徴と発達課題①
5	老年期の特徴と発達課題②
6	老化に伴うこころとからだの変化と生活:身体的な変化①
7	老化に伴うこころとからだの変化と生活:身体的な変化②
8	老化に伴うこころとからだの変化と生活:心理的な変化①
9	老化に伴うこころとからだの変化と生活:心理的な変化②
10	老化に伴うこころとからだの変化と生活:社会的な変化①
11	老化に伴うこころとからだの変化と生活:社会的な変化②
12	健康長寿に向けての健康①
13	健康長寿に向けての健康②
14	復習・確認テスト
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	高齢者に多い症状・疾患の特徴
18	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 骨格系・筋系①
19	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 骨格系・筋系②
20	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 骨格系・筋系③
21	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 脳・神経①
22	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 脳・神経②
23	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 皮膚・感覚器系
24	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 循環器系①
25	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 循環器系②
26	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 呼吸器系
27	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 消化器系
28	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 腎・泌尿器系 内分泌・代謝系
29	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 歯、口腔疾患 ・ 悪性新生物
30	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 感染症・精神疾患
31	定期試験
32	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 認知症の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

認知症の人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，認知症の人を中心に捉え，本人や家族，地域の力をいかした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。講義とグループワーク中心に学習する。

## 2 到達目標

- ①知症ケアの歴史や理念を含む，認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。
- ②学的・心理的側面から，認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し，生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。
- ③知症の人の生活および家族や社会との関わりへの影響を理解し，その人の特性を踏まえたアセスメントを行い，本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。
- ④認知症の人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

## 3 授業の方法

PCプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書と認知症ケア指導管理士の教科書を使用し，講義内容は国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

## 4 成績評価方法・基準

中間試験 40% 定期試験 40% 授業態度 10% 小テスト 10%

## 5 評価の際の特記事項

授業態度は，質問の返答，グループワークでの積極性等を総合的に判断します。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

## 7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 認知症の理解 中央法規出版  
認知症ケア指導管理士試験的テキスト 改訂版 一般社団法人総合ケア推進協議会慣習

## 8 学生へのメッセージ

認知症の人に理解を深め，我々が関わることで認知症を患ってもその人らしい生活を送れるような支援のできる介護実践を身につけましょう。

## 9 教員氏名 （ 吉田直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 （ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（認知症の理解）

回数	授業内容
1	認知症のある高齢者の現状と今後
2	脳のしくみ
3	中核症状の理解
4	BPSD の理解
5	生活障害の理解
6	認知症の診断と重症度
7	認知症の原因疾患と症状 ①アルツハイマー型認知症・血管性認知症
8	認知症の原因疾患と症状 ②レビー小体型認知症・ピック病
9	認知症の原因疾患と症状 ③正常圧水頭症・慢性硬膜下血腫・若年性認知症
10	各認知症の復習・小テスト
11	認知症スケールについて
12	認知症の治療薬 認知症の予防
13	認知症ケアの歴史と理念
14	プレテスト・解説
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	認知症ケアの実際①
18	認知症ケアの実際②
19	認知症ケアの実際③
20	介護者支援
21	認知症の人の地域生活支援
22	認知症ケア指導管理士試験対策 1章、2章、3章、
23	認知症ケア指導管理士試験対策 4章、5章、6章、
24	認知症ケア指導管理士試験対策 7章、8章
25	認知症ケア指導管理士試験対策 9章
26	認知症ケア指導管理士試験対策10章
27	過去問①模擬試験
28	過去問解説
29	過去問解説
30	プレテスト・解説
31	定期試験
32	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（障害の理解 I）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，障害のある人の地域での生活を理解し，本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。

## 2 到達目標

①障害のある人の生活を支援するという観点から，障害の概念や，障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する内容とする。

②医学的・心理的側面から，障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。

③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ，機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し，QOLを高める支援につながる内容とする。

④障害のある人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

## 3 授業の方法

事例を交え，ビデオ教材の使用。教科書を使用し，国家試験を見据えて重要事項を重点的に講義する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

## 5 評価の際の特記事項

授業態度は，質問の返答，グループワークでの積極性等を総合的に判断します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

## 7 使用教材，教具

最新 介護福祉士養成講座 障害の理解 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

障害は，生まれた時からある人もいれば，病気や事故，あるいは年をとることによって発生する場合もあり，誰にでも生じる可能性のある身近なものです。そして，障害にはさまざまな種類があり，同じ障害でもその人ごとに症状や程度は違います。また，外見だけではわからない障害もあります。

障害のある人は，日常生活や社会生活を送る中で，不便なことや困難に感じていることがたくさんあります。そして，これらの中には社会によって作り出されたものが多く，周囲の人の理解やサポートがあれば，不便さや困難さを感じないで済むことがあります。

障害及び障害のある人に対する理解を深めていただき介護福祉士として活躍してもらいたいです。

9 教員氏名 ( 吉田 直美 )

所 属 ( ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 )

実務経験の詳細 ( 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり )

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (障害の理解 I )

回数	授業内容
1	肢体不自由児(運動機能障害)の基礎的理解
2	視覚障害の基本的理解
3	聴覚・言語の基本的理解
4	重複障害の基本的理解
5	重症心身障害児の基本的理解
6	知的障害の基本的理解
7	精神障害の基本的理解
8	高次脳機能障害の基本的理解
9	発達障害の基本的理解
10	難病の基本的理解
11	国家試験問題 過去問①
12	解答解説
13	国家試験問題 過去問②
14	解答解説
15	定期試験
16	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ ころとからだのしくみⅠ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習

## 2 到達目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、ころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

## 3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書を使用し、講義内容を、国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

## 4 成績評価方法・基準

中間試験 40% 定期試験 40% 授業態度 10% 小テスト 10%

## 5 評価の際の特記事項

小テストも評価します。通年科目ですが、前期終了時に中間試験を実施します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

## 7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） ころとからだのしくみ 中央法規出版  
介護福祉士国家試験模擬試験問題集

## 8 学生へのメッセージ

人が生活をするうえで、心と体はどのように働くのか示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学びます。さらに疾病の発生のメカニズムを学ぶことによって、「予防の視点」を身につけましょう。また、移動、身支度、食事、入浴、排泄、睡眠等の生活場面ごとに、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを知りましょう。国家試験に備えて苦手分野の克服、自信をもって国家試験に臨めるよう数多くの問題に挑戦しましょう。

9 教員氏名 ( 吉田 直美 )

所 属 ( ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 )

実務経験の詳細 ( 病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり )

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( こころとからだのしくみⅠ)

回数	授業内容
1	からだのしくみを理解する。(人体の構造と機能(各種名称)・脳神経)
2	からだのしくみを理解する。(循環器・呼吸器)
3	からだのしくみを理解する。(消化器・泌尿器)
4	からだのしくみを理解する。(骨・筋肉)
5	からだのしくみを理解する。(生殖器・内分泌)
6	からだのしくみを理解する。(生命を維持するしくみ)
7	からだのしくみに関する復習 ・確認テスト
8	こころのしくみを理解する。(マズローの欲求階層説 ・ 脳のしくみ)
9	こころのしくみを理解する。(認知・記憶・感情のしくみ)
10	こころのしくみを理解する。(適応規制について)
11	こころのしくみに関する復習 ・ 確認テスト
12	移動に関連したこころとからだのしくみ (移動のしくみ)
13	移動に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が移動に及ぼす影響)
14	復習及び確認テスト
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	身支度に関連したこころとからだのしくみ (身支度のしくみ①)
18	身支度に関連したこころとからだのしくみ (身支度のしくみ②)
19	身支度に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が身支度に及ぼす影響)
20	食事に関連したこころとからだのしくみ (食事のしくみ・摂食嚥下の5期モデル)
21	食事に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が食事に及ぼす影響)
22	食事に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)
23	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が及ぼす影響)
24	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)
25	排泄に関連したこころとからだのしくみ (排泄のしくみ)
26	排泄に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が排泄に及ぼす影響)
27	排泄に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)
28	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
29	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
30	復習及び確認テスト
31	定期試験
32	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 機能的解剖学 ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

## 1 授業の内容

介護・福祉の現場で活躍されている多くの方々が腰痛で悩んでいるというデータがある。そこで、介護福祉士に必要な解剖学・運動学に基づく身体活動（運動）を通して学び、対象者や介護福祉士自身に応用できるような解剖学の知識を習得する。

## 2 到達目標

対象者の介護や介護福祉士自身のセルフマネジメントに応用できるような解剖学の知識を習得する。

## 3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 実技試験 40%

## 5 評価の際の特記事項

実技試験では介護福祉士としてのマナーも評価対象とします。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で行った学習を放課後や自宅でも振り返り，繰り返し練習することで身につけるようにしてください。

## 7 使用教材，教具

配付資料 実技の際は実習着を着用

## 8 学生へのメッセージ

介護技術中心の授業になります。しっかり身体で覚えて行きましょう

9 教員氏名 ( 田中 努 )

所 属 ( ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 )

実務経験の詳細 ( 病院にて理学療法士として勤務経験あり )

## 10 特記事項

実技経験のある教員による授業科目

科目名 ( 機能的解剖学 )

回数	授業内容
1	機能解剖と運動感覚を用いた介護方法
2	介護に運動感覚の概念を導入する
3	対象者との情報交換の方法について
4	介護における機能解剖の理解を深める
5	人の動きの理解を深める
6	人の機能の理解を深める
7	「力」の概念を介護に応用する
8	介護における環境整備を考える
9	介助への応用「上方移動」
10	介助への応用「横方移動」
11	介助への応用「側臥位」
12	介助への応用「座位」
13	介助への応用「立位」
14	介助への応用「立位移動」
15	定期試験
16	答案返却と解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療的ケア I ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

## 1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

## 2 到達目標

医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する。

## 3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか器具の名称、感染対策、手順を理解させる為座学以外に演習も行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

## 5 評価の際の特記事項

授業態度、積極性は高く評価します。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進捗計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

## 7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 医療的ケア 中央法規出版

## 8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。

命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

## 9 教員氏名（ 中島 幹子 ）

実務経験の詳細（ 病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 医療的ケア I )

回数	授業内容
1	医療的ケアとは DVD にて喀痰吸引、経管栄養を理解する。
2	喀痰吸引制度のついて
3	呼吸のしくみとはたらき①
4	呼吸のしくみとはたらき②
5	呼吸のしくみとはたらき③
6	消化器系のしくみとはたらき①
7	消化器系のしくみとはたらき②
8	消化器系のしくみとはたらき③
9	介護保険制度、障害者総合福祉法、健康保険法について
10	安全な療養生活
11	救急蘇生法の実際・演習
12	健康状態の把握①
13	健康状態の把握②
14	バイタル測定①
15	バイタル測定②
16	復習・確認テスト
17	定期試験
18	答案返却と解説